

京都大学	博士 (社会健康医学)	氏名	上田佳世
論文題目	Applicability of care quality indicators for women with low-risk pregnancies planning hospital birth: a retrospective study of medical records (病院で出産予定の低リスク妊婦への医療の質指標の適用可能性：既存の診療記録による検証)		
(論文内容の要旨)			
<p>【背景】近年、医療ケアの質向上のためにレセプト等の医事データを利用した質指標 [Quality Indicator (QI)] を定めた評価や改善の取り組みが普及しつつある。しかし、出産の多くをしめる低リスクの出産は保険診療ではなく、評価対象とされることは限られていた。本研究の目的は、病院で出産予定の低リスク妊婦に対し、診療ガイドラインのエビデンス・レビューと学際パネルの合意形成によって開発した QI の実装に先立ち、その適用可能性を検証することである。</p> <p>【方法】対象は日本で妊娠中期に低リスク妊娠と診断され 2015 年 4 月～2016 年 3 月に出産で協力 2 病院に入院した 347 人。過去の診療記録から 35 指標の QI の準拠割合 (行われるべき医療を受けた対象者数/対象者数×100 [%]) と QI の適用可能性として実現可能性、改善の可能性と信頼性 (検者内信頼性と検者間信頼性) の 3 項目を用いて検証した。各指標の分母の対象者数のうち欠測データを占める割合 >25% の場合は実現可能性が低い、指標の測定値 ≥90% の場合は改善の可能性が低いとした。検者内・検者間の信頼性には κ 係数 (0.4 未満を低値と判断) と positive and negative agreement (一致割合) を用いた。</p> <p>【結果】35 指標の準拠割合は 0%-95.7% であった。実現可能性は 29 指標で高く、改善の可能性は 33 指標で高かった。信頼性については、検者内信頼性で κ 係数が高かったのは 22 指標、検者間信頼性では 19 指標であった。κ 係数が低値の項目は、いずれも positive または negative の一致割合は高かった。評価項目全て満たした適用可能性がある QI は、25 指標であった。</p> <p>【結論】病院で出産予定の低リスク妊婦の医療ケアに関する QI は、いくつかの留意点をふまえた上で、適用可能性があることが示された。</p>			

(論文審査の結果の要旨)

申請者は、診療ガイドラインのエビデンス・レビューと学際パネルの合意形成によって、低リスク妊婦への医療・ケアの質向上のために質指標 (Quality Indicator, QI) を開発している。本研究は、QI を広く臨床で実装することを目指し、病院で出産予定の低リスク妊婦を対象に、申請者が開発した QI の適用可能性を検証したものである。

低リスク状態で妊娠を経過し、出産のため協力2病院に入院 (2015-2016年) した347名を対象とした。過去の診療記録から35指標のQIの準拠割合 (行われるべき医療を受けた対象者数/対象者数×100%) を算出した。35指標の各準拠割合は0%-95.7%であった。QIの適用可能性として、実現可能性、改善の可能性、信頼性 (検者内信頼性と検者間信頼性) の3つの評価項目を用いた。実現可能性は29指標で高く、改善の可能性は33指標で高かった。検者内信頼性でκ係数が高かったのは22指標、検者間信頼性では19指標であった。κ係数が低値の項目は、いずれもpositive・negativeの一致割合は高かった。評価項目の基準3つを全て満たしたQIは25指標であった。病院で出産予定の低リスク妊婦の医療ケアに関するQIは、記録を行う助産師等による項目定義の理解、欠測改善の取り組み、臨床業務への組み込みによるルーチン化等の留意点をふまえた上で、適用可能性があることが示された。

以上の研究は、日本の低リスク妊婦に関する医療ケアの質指標の適用可能性の解明に貢献し、医療・ケアの質向上および適切な助産・医療提供体制への構築に寄与するところが多い。

したがって、本論文は博士 (社会健康医学) の学位論文として価値あるものと認める。

なお、本学位授与申請者は、令和3年1月20日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。

要旨公開可能日： 年 月 日以降